教育研究業績書

2025年10月20日

所属： 看護学科　　資格： 助教（臨床）　　氏名： 髙田　里佳子

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学	慢性疾患、身体拘束、外国人患者
学位	最終学歴
修士(看護学)	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.多文化共生センターひょうごにおける看護学生への国際看護学習のサポート	2018年8月2018年9月	多文化共生センターひょうごの非常勤職員として、国際看護学を履修する大和大学看護学部の学 生約15名を対象に「街の中で外国人が災害避難時に感じる困難を探す」を目的としたフィールドワークの引率を行い、視点のアドバイス等を行った。また振り返りのポスター発表の指導を行った。
2.「生理学Ⅱ」における解剖見学実習でのティー チング・アシスタント（TA）業務	2017年12月	大阪大学大学院博士前期課程在学中、学部3年生が履修する専門基礎科目「生理学Ⅱ」の解剖見学実 習でTAとして、学生が数グループに分かれてご献体に実際に触れ、学習を進めている中を巡回し、質問対応を行った。ご献体への感謝の気持ち等を含め向き合う態度についても指導した。
3.「慢性期看護学実習」臨地実習でのティーチング・アシスタント（TA）業務	2017年10月2018年2月	大阪大学大学院博士前期課程在学中、学部3年生の臨地実習においてTAとして大阪大学医学部附属病院の循環器内科・呼吸器内科病棟での実習指導に携わった。学生が立てた計画や看護課題について慢性看護の「その人らしく生きる」を念頭に指導を行った。
4.「看護基礎教育展開演習」での指導と授業	2017年10月2017年12月	大阪大学大学院博士前期課程在学中、自身が専攻した「看護基礎教育展開演習」の授業の一環で、学部1年生を対象とした看護理論に関する概論の授業において、「看護理論とは何か」に関する講義を1コマ行った。また、学生達がヘンダーソンで理論展開を行うグループワークの授業では、ファシリテーターの役割を担った。
5.「成人・老年看護学援助論Ⅱ」でのティーチン グ・アシスタント（TA）業務	2017年6月	大阪大学大学院博士前期課程在学中、学部3年生が履修する「成人・老年看護援助論Ⅱ」で、血糖自己測定とインスリン自己注射の手技を学生が安全に実施できるよう指導した。
6.「生理学Ⅱ」における心電図演習のTA業務	2017年5月	大阪大学大学院博士前期課程在学中、学部3年生が履修する専門基礎科目「生理学Ⅱ」の学内演習でTAとして、主に心電図測定に関して、測定上の指導や助言、注意点等を学生に説明し演習を運営した。
2 作成した教科書、教材		
1.在日外国人ケア労働者対象の異文化間ケア教育 プログラムDVDの作成	2018年1月	大阪大学大学院博士前期課程在学中、短期教育支援員として、経済連携協定（EPA）のもと日本で看護師として働く意志のあるインドネシア人向けの異文化間ケア教育のDVD作成に携わった。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.プリセプター役割の経験	2023年4月1日2025年3月31日	大阪医科薬科大学病院の看護師として、3名の新人看護師のプリセプターとして育成に携わった。日々のケアや業務の指導に加えて、ラダーⅠ取得課題の「多側面から患者を捉えた看護実践」についてのレポートの指導も行った。
2.エルダー役割の経験	2022年4月2023年3月	大阪医科薬科大学病院の看護師として、2名の新人看護師のエルダーとして、主にメンタルサポートを中心に関わった。
4 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.養護教諭2種免許	2018年1月	登録番号：第47号
2.保健師免許	2017年4月	登録番号：第270062号
3.看護師免許	2017年	登録番号：第1926022号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.カンファレンス係としての活動	2024年4月2025年3月	大阪医科薬科大学附属病院の看護師として、病棟のカンファレンス係として主に倫理カンファレンスを積極的に行った。全て多職種カンファレンスとし、患者に対してジレンマを感じている看護師が いた場合はタイムリーにカンファレンスを開催した。それにより職種や年齢に関係なく積極的な発 言があり、共通の悩みとして共有することができた。また、専門看護師の参加や、先行研究や理論に基づく考察により専門性を高め、患者に還元できるようにカンファレンスの内容は看護計画や看護指示に反映させることで統一した関わりを行った。
2.安全委員会活動	2023年4月2024年3月	大阪医科薬科大学附属病院の安全委員会の委員として、1年間活動を行った。IC記録の入力を当日・翌日反応ともに記載できているかを月ごとに確認し、不足があれば担当看護師に追加記入してもらうよう呼びかけた。
3.感染対策委員活動	2022年4月2025年3月	大阪医科薬科大学附属病院の感染対策委員として、2年間活動を行った。アルコール使用量の調査やスタッフへのアルコール使用量増加に向けての指導、病棟内のB-Tや中心静脈カテーテル挿入患者を月ごとに集計し1か月以上同じカテーテルが留置されていないか等、病棟内の感染リスク減らすための活動を行った。
4.大阪大学短期教育研究支援員としての活動	2017年8月2019年3月	大阪大学大学院博士前期課程在学中、子育て等で 研究時間が確保しにくい研究者の研究サポートを実施していた。先行研究の文献検索を行い表にまとめたり、研究論文の体裁を整える等、論文の執筆・投稿の補助を行ったり、映像教材の制作のサポート等を行った。
5.多文化共生センターひょうご非常勤職員としての活動	2017年5月2018年10月	多文化共生センターひょうごで非常勤職員として地域に住む外国人のサポートを行った。地域交流の場を設けたり、在日外国人の子供に勉強を教える等の活動に加えて、在留外国人の動向を統計データとしてまとめる作業も行った。
4 その他		
1.看護質的統合法(KJ法)初心者研修 修了	2018年	大阪大学大学院博士前期課程在学中、KJ法の初心者研修を2日間受講した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.外来通院中の中長期在 留者が日本で2型糖尿病と 共に生きる生活体験(修士 論文)	共	2019年3月	大阪大学大学院医学系 研究科保健学専攻	日本で外来通院中の中長期在留者の2型糖尿病と共に生きる生活体験のあり様を明らかにすることを目的とし、2型糖尿病で外来通院中の中長期在留者6名に半構造化面接を実 施した。分析の結果、《日本で気づいた糖尿病の怖さ》《母国との比較で日本の医療を肯定した自己管理への取り組み》《医療者に頼らない自分での対処》《母国の食文化とは異なる日本での自己管理への取り組み》《その人なりの糖尿病との生活》《異国での糖尿病と暮らす戸惑いや不安》《外国人だからこそ感じる糖尿病治療への期待》の7つのカテゴリが明らかになった。
3 学術論文				
1.外来通院中の中長期在 留者が日本で2型	共	2021年3月	日本看護科学会誌, 40 巻 pp.661	日本で外来通院中の中長期在留者の2型糖尿病と共に生きる生活体験のあり様を明らかにすることを目的とし、2型糖尿病で外来通院中の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
糖尿病と 共に生きる生活体験のあ り様（査読付）			-671	中長期在留者6名に半構造化面接を実施した。分析の結果，《日本で気づいた糖尿病の怖さ》《母国との比較で日本の医療を肯定した自己管理への取り組み》《医療者に頼らない自分での対処》《母国の食文化とは異なる日本での自己管理への取り組み》《その人なりの糖尿病との生活》《異国での糖尿病と暮らす戸惑いや不安》《外国人だからこそ感じる糖尿病治療への期待》の7つのカテゴリが明らかになった。 本人担当部分：研究計画立案から執筆まで全て担当。 共同著者：橘里佳子、畠中香織、河井伸子、北村広美、清水安子
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.外来通院中の中長期在 共著留者が日本で2型糖尿病と共に生きる生活体験における文化的影響～20代台湾人女性の分析結果より～		2019年3月	文化看護学会第11 回学術集会（大阪大学コンベンションセンター）	外来通院中の中長期在留者の台湾人女性へのインタビューから日本で2型糖尿病と共に生きる生活体験における文化的影響を明らかにした。質的統合法(KJ法)にて分析した。A氏は《日本での診断：糖尿病の怖さを知り、早期発見を受容》と《日本での治療：台湾と比較し思う満足感と父を反面教 師に糖尿病に向き合う覚悟》が基盤にあるが、血糖コントロールが安定している状況の中で、《今は安定：アドバイスを取り入 れた自分なりの自己管理》と《今は大丈夫：時折浮かぶ心配や疑問も医師に聞くほどでもない》が相俟って、《糖尿病との付き合い方：忙しさや不便さから糖尿病を気にしすぎない》という思いに繋がっていた。この思いには、《日本人の友人への対応：台湾と違う病気への反応に戸惑い、ごまかす》と《台湾人の家族と友人への対応：糖尿病の相談はしない》という対応の 様子が波及していた。 共同発表者：橘里佳子、畠中香織、河井伸 子、 北村広美、清水安子
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2022年7月2023年2月	高槻市新型コロナワクチン集団接種に係る活動
2.2018年10月2019年3月	文化看護学会第11回学術集会企画委員